

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	環境園芸実験実習Ⅱ						授業形態			
科目コード	710003	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議、廣瀬 大介、平岡 直樹、姜 暎求、新谷 喜紀、岡島 直方、長江 嗣朗、山口 健一、菅野 善明、陳 蘭庄、林 典生、関西 剛康、前田 隆昭、牧田 直子、杉田 亘								ICT活用	
授業概要	環境園芸実験実習Ⅰに引き続き、環境を考えた循環型社会に向けて、植物に係わる農学系の生産園芸（作物）保全、造園緑地、パイオ・育種、花・ガーデニング、自然環境の立場からフィールドセンターの実習場、学外の実習場、屋内の実験実習場を利用して、環境への負荷を軽減することが可能な技術について基礎的な実験実習を学びながら、応用への考察ができるようにします【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。									
関連する科目	環境園芸実験実習Ⅰ									
授業の進め方 と方法	授業はオムニバス形式で行われます。1学年をA,B,C,Dの4班に分けて実習を行います。各専攻で実施する内容は以下に示しますが、具体的にいつ何を行うかの日程は別紙で示します。回ごとに、何を学ぶのかの概要、それを学ぶための方法の説明がなされます。概要を理解した後に、実習や実験として、実際に体験してもらいます【知識・技能の育成】。体験内容はレポートなどにまとめます。1回の授業構成は2コマです。以下の授業計画はA班を事例としたスケジュールです。また、本実習はグループワークや体験学習等を取り入れたアクティブラーニング形式で実施します【コミュニケーション能力の育成】。									
授業計画 【第1回】	(A班を事例としたスケジュールを示す。班によって順番が異なる) 根菜類・葉菜類野菜の形態観察（園芸） 野菜栽培の基礎である畝作り、種まき、発芽率調査、間引き、生育観察などの作業を行う。									
授業計画 【第2回】	造園機械入門（バックホー 走行・掘削・旋回）（造・緑） 造園の地形調整で用いる小型車両系建設機械の操作方法の基礎を学ぶ。									
授業計画 【第3回】	寄せ植え鉢の整理、花壇用苗づくり（播種）、花壇管理（花・ガ） 前期で作成した寄せ植え鉢の整理作業及び今後花壇作成実習で使用する花壇スペースの管理や花壇苗の播種等を行う。									
授業計画 【第4回】	実験データの基本的解析法（バ・育） 情報処理室にて実験データ解析の基礎を学習する。									
授業計画 【第5回】	ICM（総合的作物管理）の実践（園芸） 園芸植物の栽培で発生する病害虫・雑草の管理方法を実践する。									
授業計画 【第6回】	造園技能入門（造・緑） 国家試験である造園技能士実技の初歩を学ぶ。ロープワークを含む。									
授業計画 【第7回】	植栽デザインと管理（定植・株分け等）（花・ガ） フィールド教育センター内の花壇について、デザインを検討しながら、球根の植え付けや大きく育った宿根草の株分けを行う。									
授業計画 【第8回】	DNA分析基礎（バ・育） DNAの分析を行うための基礎知識としてDNAの構成と構造を学ぶ。また、DNA分析に日常的に利用されている電気泳動の原理と実際にについても学ぶ。									
授業計画 【第9回】	野菜の栽培管理（園芸） 野菜の管理と収穫を中心に実物を使って学ぶ。									
授業計画 【第10回】	エクステリア入門-3（造・緑） 造園作品の作成（枯山水のミニガーデン）を通じて、造園の収益構造を学ぶ。									

授業計画 【第11回】	農家のガーデンの活用（風の丘ガーデンの視察）（花・ガ） 瀬田園芸さんでは、花卉農家を行いながら6次化を行い、店舗前にはガーデンも作庭されています。実際に現地を見学し、花卉農家でガーデンをどのように利用されているかを学ぶ。
授業計画 【第12回】	堆肥散布（園芸） 圃場にて堆肥の散布とすき込みを行います。また、小型農業機械の取り扱い方を教授する。
授業計画 【第13回】	食用昆虫の飼育、昆虫の解剖（自然） 食用昆虫の飼育実験と解剖を行う。
授業計画 【第14回】	GAPに関する農業実習（園芸） GAPの基礎について学ぶ。
授業計画 【第15回】	第15回目：データ処理について（園芸） 3つ以上の平均差検定及び順位差検定を学び、統計分析ソフトRで実習する。
授業の到達目標	1. 今後の環境園芸学部で修学するに必要な観察・分析および機械操作などの基礎を習得する【専門分野のスキルの獲得】【実践力の育成】 2. 集団での作業を通じて意思疎通、協調性、自己表現能力を身につける【コミュニケーション力の育成】
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	【予習】事前に専攻別に配布された講義日程をもとに内容を確認し、毎回30分程度予習をする。
授業時間外学習【復習】	【復習】実験実習中あるいは実習終了後に提出用レポートに目的、材料、方法、結果、考察およびまとめを図示も入れて記述しながら復習をかねて1時間程度学修する。
課題に対する フィードバック	その回ごとに体験すべき技術や実験がある。指示に従って適切に実施できているか、受講生の実施状況を見ながら、その都度担当教員などから必要な指示がなされる。
評価方法・基準	レポート点と講義途中の小テストなどで総合的に評価する。オムニバス形式なので、2回（2コマ）で7点満点評価する。
テキスト	担当教員によりプリント等の配布あり
参考書	担当教員により、別途紹介する。
備考	指定した作業服、靴および白衣を着用する